

一般質問

12月3日から6日、9日の5日間にわたり、32名の議員が市政を取り巻く諸問題について、意見・提案を交えながら、市長などの考えをいただきました。質問、答弁の要旨は次のとおりです。
※議長と副議長は、町田市議会では一般質問を行わないことになっています。

各議員のタイトル下から一般質問の録画映像にアクセスできます。
※動画の再生には別途通信料がかかる場合があります。



ちづくり街地の32ま



三遊亭らん丈(自由民主党)
町田駅周辺の再開発の動向について、「まちづくり勉強会」から「まちづくり協議会」への移行にあたって、その変化を確認したい。
櫻井副市長 地権者の合意形成を着実に進め、都市計画決定や事業化につなげていきます。また、より踏み込んだ協議を進めていくためにガイドラインの策定に着手します。
町田市の防災体制において、避難施設における備蓄などの状況は、
防災安全部長 食料は避難者の3食3日分、合計42万570食を備蓄しています。トイレ設備は、基準である50人に1基以上を確保しています。
町田市の「おくやみハインドブック」作成の経緯は、
市民部長 分かりやすく案内できるものはないかと検討し、他市での取組などを参考に、作成しました。



さらなるスポーツ振興について



佐藤和彦(まちだ市民クラブ)
パラスポーツの充実のために、どのような取組を推進していくのか。
文化スポーツ振興部長 普及啓発の拠点として(仮称)町田木曽山崎パラアリーナ整備を進めています。競技者の練習などの利用や、体験教室の開催なども想定しています。
町田市の環境整備について、今後の方針は、
文化スポーツ振興部長 タブloid紙を制作し、市内の小中学校や新聞折り込み等で配布を予定しています。



公共施設について



若林章喜(選ばれる町をつくる会)
昨今の社会情勢の変化を踏まえ、改めて再編計画の考えを問う。
市長 施設の老朽化の現状、人口減少、社会保障費の増加などの課題を踏まえて、実行していくことが重要だと考えております。将来を担う世代へ負担を残さないためにも、一人でも多くの方と目標を共有し、よりよい町田の実現に向けて進めてまいります。
高年齢者を介護する家族介護者の悩みや不安に対する取組は、
いきいき生活部長 高齢者支援センターでは、様々な相談に応じています。加えて、家族介護者交流会を開催し、支援に取り組んでいます。
町田市の取組は、
総務部長 制度を改正する予定です。働きやすい環境の整備に取り組んでいます。



水耕栽培と連携



吉田つとむ(無所属)
町田市内の企業が開発した町田式新農法による水耕栽培メロンのシステムが多数の自治体に普及し始めている。その導入普及自治体との連携をどのように図るか。
経済観光部長 全国各地の特産メロンが町田式水耕栽培装置で生産されていることを市内外に向けて積極的にプロモーションを行っています。24年11月のキラリ☆まちだ祭でも、つがる市へ連絡を取り、つがる市における町田式水耕栽培装置を活用したメロンの栽培状況を紹介するパネルを展示したところです。
町田市に電子投票導入を行う自治体が出て、疑問票のゼロ化実現と開票作業の迅速性に期待を持つか。
選挙管理委員長 8年ぶりに四条畷市長選挙が行われますので、全国的な動きも注目をしているところです。



職員人材育成基本方針の改定



石川好忠(自由民主党)
町田市職員人材育成基本方針の改定についての進捗状況・内容は、
榎本副市長 意見交換会を開催し、職員の様々な意見を改定に反映していきたいと考えています。「みんなを思いやり、自ら考え、自ら行動し続ける職員」を継承し、25年2月には完成させる予定です。
町田市の進捗状況は、
学校教育部長 市の財政状況を踏まえ、統合、建て替えが計画のとおり取り組むことができるか検討しています。
町田市の職員・休職については、
総務部長 正規職員のうち、23年度に産休を取得した職員は68人、育休は197人、病休のうち30日以上取得した職員が119人となっております。職員配置の変更や業務の調整などが課題と認識しています。



入札不調／バスおむつ処分



森本せいや(まちだ市民クラブ)
工事請負の入札不調・中止が多すぎる。市内事業者が応札しやすい環境整備を。
榎本副市長 今後の状況を注視しながら、より市内事業者が受注しやすい環境を整えていく必要があると考えています。技術者不足に対する方策として、余裕期間制度の導入を検討しているところです。
町田市の保育所等でのおむつ処分負担が大きい。公道価格や町田市補助で軽減するべき。
子ども生活部長 事業者の声を踏まえ、再度国に確認し、改めて判断していきたい。
道路部長 路線バスの減便は、日常生活に大きな影響を与える。市民の不安を解決する、町田市地域公共交通計画の策定を。
櫻井副市長 26年度目途とし、策定に取り組んでいます。
都市づくり部長 市民の移動ニーズに対応するサービス水準確保を目指していきます。



虐待・ヤングケアラー・高齢者



秋田しづか(諸派)
子ども若者総合相談センターを設置してはどうか。
子ども生活部長 町田市では、まちだ福祉〇ごとサポートセンターで実施している相談事業等において連携を図り、支援体制を構築しています。設置については、既に運営している自治体の手法や効果等を参考に研究していきます。
虐待やヤングケアラー について学校で指導する機会はあるのか。
指導室長 児童生徒に対し、身近な大人に相談することなどを指導しています。特別活動など、虐待やヤングケアラーに触れる場合もあります。
町田市のLINEを活用した高齢者の見守りを行ってはどうか。
いきいき生活部長 今後も他自治体の取組ですとか、民間の動向を注視しながら活用について研究していきたい。



安全安心の防災対策を求めて



細野龍子(日本共産党)
都の補助制度を活用して補聴器購入助成の早期実施を求めるがどうか。
いきいき生活部長 引き続き、他自治体の実施状況や、その効果等について確認しながら検討を進めていきます。
町田市の避難所となる学校施設を、避難所とする場合、避難生活ができる建物は残るのか。
防災安全部長 市では、状況を踏まえ、避難施設の機能は閉校となる学校跡地で引き継いでいくこととしています。
町田市の避難施設運営のジェンダー平等の視点について問う。
防災安全部長 町田市地域防災計画にて、ジェンダーに配慮したスペースの確保や相談の受けやすい体制を検討するなど配慮すべき事項について定めています。トイレの比率やプライバシー確保等について、避難施設関係者連絡会で話し合い決定していきます。



歩道・整備被害・倒木対策



渡辺さとし(まちだ市民クラブ)
計画を検討すべきではないか。
町田市の歩道整備計画を策定する。
道路部長 新たに整備する歩道は、沿道宅地の高さやバス停の位置などを考慮しつつ、原則セミフラット型の歩道を整備することとしています。
町田市の全国的に樹木の倒木が相次いでおり、公園・緑地の安全利用のため、樹木の更新計画を検討すべきではないか。
都市整備担当部長 公園内の樹木の更新計画を策定するということが今後の検討課題であると考えています。
町田市の民有林の倒木・落枝被害相談窓口を設けられないか。
都市整備担当部長 広聴課の法律相談で助言を受けることができます。また、各市民センターでも、相談室を設置しており、関係機関につなぐことも可能となっています。



今後のバイト対策！



松岡みゆき(無所属)
相次ぐ闇バイト強盗で市民に不安が広がった。対策として警察との連携は何か。
防災安全部長 警視庁は、最寄りの警察や警視庁総合相談センター、#9110、ヤング・テレホン・コーナーに相談するよう呼びかけています。市も連携しながら、啓発活動を行っています。
町田市の闇バイト対策に、市川設置可否を研究していきます。



芹ヶ谷公園 (せせらぎ付近)